

令和4年度 学校評価表

島根県立吉賀高等学校

めざす生徒像～地域・社会に貢献できる人材（財）の育成～	
1	地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
2	地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
3	地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる
4	地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける

教育目標	
1	自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成
2	当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成
3	答のない課題を解決するために行動する人間の育成
4	広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成

評価項目	重点目標	具体的施策	主資料	自己評価（昨年度）	取組状況と課題	学校関係者評価		改善策
						評価	意見	
1	学力の向上	個々の生徒に対する、効果的な教科指導 ・学習支援と学習評価 ・教師の授業力の向上	教師評価 生徒・保護者評価	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も国英数の習熟度別授業や特別指導を通して、それぞれの学力層へ効果的な指導を展開した。授業では指導者用PCを用いる機会が着実に増え、生徒の理解と教師の授業改善につながった。 「思考力や判断力を身につけさせる授業」を主題とし、指導者用PCを使用するという条件で、ほぼ全ての先生方が公開授業を実施した。教科主任会では、観点別評価についての意見や疑問を各教科から出してもらい、各教科の実情に応じた評価をすることができた。 課題としては、家庭学習時間の確保と、授業アンケートの実施が挙げられる。また、教育課程の修正が必要となったので、教科主任会を中心に検討していく予定である。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 公設塾に通う生徒も多く、今後も学校と連携し、個に応じた学習支援をお願いしたい。 スタディサプリ等を活用して時間の有効活用を促す指導を進めるとよい。 英検等、資格取得に取り組む学習意欲の高い生徒が増えている。今後、町行政へ検定補助制度設立をよびかける等、吉賀町の児童・生徒学力向上策につながるよう支援したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に活用しているスタディサプリの課題配信に加え、生徒が各自の端末を用いて学習する機会を増やす方法を考える。 授業アンケートは、年2回（期末試験後）実施できるように早めの準備を心がける。 必要に応じて、IGTに関連した内容や教育課程編成についての校内研修を実施する。
		本校の新しい教育課程の編成 ・新学習指導要領の研究 ・サクラマス・プロジェクトに基づく授業改善と教育課程づくり	教師・学年評価	3 (3)		3		
2	基本的な生活習慣の確立	生徒との信頼関係構築と協働 ・挨拶、声かけの励行	生徒・生徒・保護者 地域評価	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 校内外問わず、教職員・生徒の挨拶や声かけができています。 身だしなみを自立的に整えるよう生徒指導部、担任から促したが、効果的な改善には至らなかった。身だしなみ指導、検査を行いつつ、生徒の自立的な改善に期待したい。 携帯端末機器の利用ルールを今年度から緩和の方向で変更し不適切な利用を懸念していたが、大きな乱れはなかった。まだ十分とは言えないので引き続き指導を加えたい。 安心・安全アンケートを3回実施した。アンケートだけでなく、定期的ないじめ防止委員会を開催し、いじめの未然防止に努めたものの、多くの人間関係トラブルが生じ事後対応が多かった。 養護教諭を中心に生徒の相談体制を整えることができた。多くの相談が寄せられ生徒観察をきめ細かく行うことができた。 町外・県外生徒への指導体制において、寮での生活など様々な課題が残っている。 定期的ないじめ防止委員会や生徒支援委員会よって、配慮の必要な生徒の情報共有が図られ、外部機関と連携をとりながら生徒の課題に組織的に対応することができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動や校内の巡回指導を行い、より挨拶、声かけができるようにする。 身だしなみ指導のあり方を検討する。検査と自立的な改善をバランスよく促せるようにしたい。 携帯端末機器使用規則を周知し、ルールを守る規範意識を持たせる。 アンケートや面談、日常の生徒観察を行い、生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう支援していく。 良好な人間関係づくりを生徒に促すため、指導法を検討していく。 生徒支援委員会、いじめ防止委員会など組織的な取り組みを充実させていく。 寮の指導体制に関するルール作りなど、組織的に検討していく。 	
		自律的な生活態度の育成 社会人基礎力の育成 （学校はよい習慣を身につけること）	生徒・生徒・保護者 地域評価	2 (3)		3		
		教育相談活動の充実 ・必要な生徒への個別支援	生徒・保護者評価 生徒・保護者評価	4 (4)		4		
3	部活動・学校行事の奨励	部活動の活性化 ・積極的参加の奨励 ・地域活動への参加	生徒・学年評価 地域・保護者・生徒評価	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブでは生徒の要望に応じて様々な活動を行うことができた。引率等の指導者体制に課題が残る。 多くの生徒が部活動に加入し、積極的に活動できた。部員数の少ない部活動もあり、活動に支障をきたすことがあった。 生徒会役員を中心に学校行事や生徒会活動が行われ、彼らの独創性や自主性が発揮された活動ができた。 生徒会生徒とコミュニケーションを図り、さらに自主、自立的な活動を促したい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 男子生徒寮「よしかみらい」も開設されることから、町内中学校とも連携し、生徒募集にもつながるような部活動等の特色を打ち出していくとよい。 地域クラブの活動をより充実させるとともに、引率等の課題は教職員や地域とも連携し、計画的に配置していく。 中高の連携を深め、部活動加入率をさらに向上させていく。中高合同の活動ができるよう検討していく。 生徒会活動や学校行事について例年にとらわれない計画を立てさせ、自主自立的態度を育てる場としていく。一部の生徒に負担が偏らないように、他の分掌や学年会との連携を密にし、生徒一人ひとりに役割を与え、健全な心身を育てる活動へとしていきたい。 	
		生徒会活動の活性化 ・集団としての教育力の形成	生徒・学年評価 生徒評価	4 (4)		4		
4	進路指導の徹底	キャリア教育の充実	総務・進路	4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は「キャリア教育文部科学大臣表彰」も受け、教育雑誌にも特集を組まれる等、地域との連携、「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」の取り組み、キャリア・パスポート活用が生徒の成長につながる実践であると内外に認められていると捉えている。 「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」での成果や成長を進学や就職などの進路選択に生かし、志望先に合格した生徒が大半だった。また、「サクラマスとーく」での自身のキャリアへの振り返りが、目標とする将来の自分の姿へと結びついた。 生徒の進路志望を把握し、進学、就職問わず各種進路ガイダンスを実施し、情報を提供した。また、地域との連携による進路ガイダンスも実施できた。今年度は保護者に対してもガイダンスを案内し、生徒と同様の情報提供を試みた。少人数ながらも参加者があり、意義があった。 休日補習や放課後補習について、まずは生徒の学力向上を考えなければならないが、日程や参加人数等、ここ数年積み残された課題が浮き彫りとなった。特に今年度3年生は、推薦入試を用いて合格した生徒が多く、模試の復習だけでなく補習の内容についても再検討する必要がある。 進路検討会では全生徒の志望先を全教員で共有し、多方面から検討を行い生徒に適切なアドバイスができるよう進路情報を提供できた。3年生については、例年教員全員体制で個別指導を行っているが、きめ細やかな指導が進路実現へと結びついた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 小さな学校で教員も少ない中、生徒の進路志望に応じて個別にしっかり支援していただき感謝している。学校関係者の立場からも保護者へこのことをしっかり伝えていきたい。 「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」について、地域住民からもしつかり取り組んでいるという話をよく聞く。また、人生グラフを作成し、自身を見つめ直す「サクラマスとーく」の実践は非常によい。町内小学生も高校生から大きな影響を受けている。そのような振り返りの習慣が身につくよう、学校で平素から指導されているように感じた。 「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」については新課程2年目となり、より外部との連携が重要となってくる。もっと情報発信に努め、アンテナをはり、新しい地域人材と繋がるようにしていきたい。 休日補習や放課後補習については、各教科からの情報を得て、生徒の意欲や学力を向上させ、進路実現に結びつく効果的な形での補習を検討したい。また、公設塾の協力を仰ぐ必要もある。 模試日程が英検や総体と重なり無理な受験とならないように調整する必要がある。生徒の進路選択は年度によって異なるので、その年に合わせて模試や補習が実施できるよう調整する必要がある。 進路情報の保護者への提供は引き続き実施するが、各種ガイダンスだけでなく、進学や就職に分けてタイムリーな情報を発信し、家庭でも保護者とともにしっかり進路について考える機会を設け、1年生から進路に対する意識を育てたい。 今年度の3年生が「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」で得た学びを進路決定に結びつけたように、学びの成果が強力な武器となるよう担当者との連携を深め協力を仰いでいく。 	
		適切な進路情報の提供	進路・学年評価 生徒評価	4 (3)		4		
		補習・放課後学習会等進路実現のための支援	進路・学年評価 保護者・地域評価	3 (3)		3		
		進路実現への支援	進路・学年評価 生徒・保護者・地域評価	4 (4)		4		
5	人権教育の推進	HRでの指導の充実 他者の尊重、教職員による人権意識高揚の働きかけ	人権教育評価 学年評価	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育HRは昨年に引き続き、学年部で指導案を作成し、生徒の現状に応じた授業が実施できた。 人権教育HRの合評会と教職員研修とを兼ねたことで全教職員で公開授業を振り返ることができた。 安全安心アンケートや生徒支援委員会等を通して教職員が連携し、生徒間での言動や行動把握に努めた。 吉賀町人権啓発推進事業と連携し、講演会や交流会を実施した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心・安全に生活できるよう、お互いの人権を尊重する集団づくりに今後も引き続き取り組んでいきたい。 生徒が安心・安全に生活するために、集団生活に必要なルールやマナー、人権意識を身につけることができるよう教職員で連携し、指導案にも盛り込んでいきたい。 今後も吉賀町人権啓発推進事業と連携し、年間行事に位置づけ、生徒教職員にとって有意義な活動を展開していきたい。 	
		教職員研修の充実	人権教育評価	3 (3)		3		
6	中高一貫教育の推進	サクラマス・プロジェクトと連動した中高連携の実施 ・めざす生徒像の実現に向けた活動の推進 ・推進重点事項の設定と実施	中高一貫教育アンケート	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育合同職員会議における講演会を実施し、中高・地域のつながりを活かした学び、教科と探究を接続させるカリキュラムマネジメントに対し、中高教職員が共通して意識を高めることができた。 中高一貫教育推進重点項目に掲げる「思考力・表現力」の育成を重視した授業づくりへの共通理解が深まるとともに、新教育課程に対する情報交換や授業交流がコロナ禍を乗り越えながら進展した。 中高一貫教育基幹行事である中高合同ロードレース大会をこれまで実施してきたが生徒間の交流は少なく見直す必要がある。部活動によっては、地域スポーツクラブと連携し、中高合同練習を定期的に行うことができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫基幹行事として、よしか夢花マラソンにボランティアとして参加するアイデアはよいと思う。この行事を通して、中高生徒間の交流が進むことを期待したい。 中高一貫の学力向上策として英検に力を入れることや部活動の地域スポーツ移行について、中高で連携を深め町行政へ働きかけを強めていくことに協力していきたい。 中高一貫教育を推進する上で、教科部会を中心に中高教員が連携する機会を大切にするとともに、生徒会交流部会や部活動交流部会・人権教育部会等の専門部会も定期的に開催し、生徒間交流を積極的に促したい。 次年度より「よしか夢花マラソン」ボランティア活動等を中高一貫教育基幹行事に位置づけ、生徒間交流および地域とのつながりを深めていきたい。 吉賀町サクラマスプロジェクトをリードする吉賀町教育委員会に積極的に働きかけ、中高一貫の学力向上策やキャリア・パスポートの活用方法を検討するなど、保小中高協働の連携の質をさらに高めていかなければならない。また、部活動の地域移行についても、町教委・中高が情報交換を行いながら連携し取り組む体制を構築していく必要がある。 	
7	魅力と活力ある学校づくり	町・外部機関と連携した活動の推進	生徒・総務評価 生徒・保護者・地域評価	4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 町・大学・その他外部機関と連携を取りながら、「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」のカリキュラムを充実させることができた。また、オープンスクールの在り方についても、町内中学校の要望を取り入れながらよりよい形に修正して実施し、地域みらい留学による町外生徒募集についても町と連携しながら実施できた。 課題としては、「総合的な探究の時間（アントレプレナーシップ教育）」に関わっていただく「地域の大人」がやや限定的になっている点である。 情報発信については、地域の方の年度末評価でR3(2.8)⇒R4(3.1)と数値が上昇したので、十分な取り組みができたのではないかと思います。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材については協力してもらえる人材が増えるよう、コーディネーターを中心に開拓していきたい。 コロナによる規制も緩和されてきたので、もっと生徒も教員も、地域の方や保護者と関わる機会が増えてくるはずである。まずは、「よしか夢花マラソン」への協力から、連携を深めていきたい。 保護者への情報発信については、「さくら連絡網」をもっと効果的に活用していきたい。 	
		学校の情報を地域・保護者に十分に伝える ・学校だより紙面の充実 ・HPの更新	総務評価 生徒・保護者・地域評価	4 (3)		4		
8	学校安全管理	防災避難訓練の計画的実施	総務評価	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練については、地震・火災・土砂災害など対応が求められる「やるべきこと」を、従来どおりきちんと実施していく。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 防災についても、教員と生徒が協働して共に意識を高めていく取り組みの工夫に期待したい。 次年度の自転車利用者ヘルメット着用努力義務化について、学校も地域と一体となって指導をお願いしたい。 	
		安全点検の計画的実施	生徒評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		

【評価】 4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや不十分であった 1：全く不十分で達成できなかった